

きん うす
金の臼

5 むかしむかし、みぞろが沼のほとりに、兄弟の百姓が住んでいました。兄は少しおろかで、弟は小賢しい男でした。その弟は兄を毎日沼の岸へ行かせて、草刈ばかりさせていました。

10 ところがある日、沼から美しい女の人が、手に一通の手紙を持って出てきて、「どうかこの手紙を御駒が岳の麓にある八郎が沼まで持って行ってください」と、その兄に頼みました。「八郎が沼へ行ったら、岸に立って手を叩いてください。そうすれば水の中から若い女が出て来るから、それにこの手紙を渡してください。」と言いました。男は頼まれて、早速その手紙を持って八郎が沼へ行きました。そうして教えられた通りに手を叩くと、沼から美しい女が現れて手紙を受け取って読みました。みぞろが沼の姉が、いつも世話になっているそうですね。この手紙の中に書いてある物は、今持って来てあげるからしばらく待っていてください」と言って、沼に戻って小さな石の挽き臼を手を持って、再び出て来ました。「これは私の宝物だけれども、姉の言いつけだからあなたに差し上げます。この小白に一粒の米を入れてまわす

金=Gold; 臼=Mühle

沼=Sumpf; みぞろが沼=Sumpf *mizoro*

小賢しい=schlau

5 草刈=das Mähen

御駒が岳=Berg *okoma*

八郎が沼=Sumpf *hachiro*

10 手をたたく=in die Hände klatschen

教えられた通りに=wie angewiesen

15 世話になる=viel zu verdanken haben

挽き臼=Mühle

言いつけ=Anweisung

20 小白=kleine Mühle; 一粒=ein Korn

と、黄金の粒がひとつ出ます。ただ帰ったら庭の片隅に、ひとつの池を作って、朝と晩にそこから水を汲んで、この挽き臼に供えてください。」こう言って臼を男に手渡しして、また沼へ入って行きました。

- 5 兄は小白を持って自分の家に帰り、毎日一粒ずつの黄金を臼から出して、楽々と暮すようになりました。弟は兄が最近草刈にも行かないで、楽に暮しているのを変に思って、そっと覗いて見ると妙な臼をまわしています。それで兄の留守に、小白を見つけ出して、米粒をひとつ入れてまわして見ると、たちまち黄金の粒が出るのでびっくりしました。しかし欲の深い弟ですから、それだけでやめることができません。一度にたくさんの金を取ろうと思って、お椀に一杯の米をいれてその臼をまわして見ました。そうすると小白はころころと転がって、外へ出て、庭の隅に掘った池の中おちて、とうとう見えなくなってしまいました。

黄金=Gold; 片隅=am Rande, in einer Ecke

供える=niederlegen

5

楽々と=sorglos, mühelos

変に思う=sich über etwas wundern

10

たちまち=im Nu

欲の深い=gierig